

2018 JUA/AUA Academic Exchange Program 参加報告

林 哲太郎 (広島大)

この度はJUA/AUA Academic Exchange Programにて、テネシー州ナッシュビルのVanderbilt University 臨床見学と、サンフランシスコのAUAに参加をさせていただき、この場を借りて関係者の方々に感謝を申し上げます。

Vanderbilt University の泌尿器科は、臨床スタッフ約17名、フェロー約7名、レジデント16名で、手術は毎日行われていました。泌尿器科専用手術室4室は全てダビンチが置かれ、ロボット支援下の副腎摘除術、腎部分切除術、腎尿管全摘除術、膀胱全摘除術(100例/年)、前立腺全摘除術(850例/年)、腎盂形成術を数多く勉強させていただきました。また、PNL(100例/年)、TUL、HoLEPや新しい前立腺肥大症手術であるUroliftなどのEndourology手術も見学できました。最も驚いたことは、膀胱全摘除術症例以外は、基本的に手術翌日が退院日だったことです。病棟業務としては、毎朝6時半からカンファレンスがあり、週1回のGrand roundではClavien分類Grade3以上の症例への改良点が話し合わせ、Tumor boardという放射線科、腫瘍内科、病理診断科との合同カンファレンスでは治療方針が相談され、とても勉強になりました。セミナーへの参加やラボ見学も含め、希望通りUSAのhigh volume centerの実際を見ることができました。

私のSupervisorはDr. Barocas(写真1)で、彼の手術、外来、研究ミーティングに参加させていただきました。本邦でロボット支援下の膀胱全摘除術が保険収載されたことを伝えると、前立腺全摘も膀胱全摘を念頭にposterior approachで行ってくれ、手術のポイントを説明してくれました。外来でも診断や治療方針について話し合うことができたのはとても良い経験でした。彼の研究ミーティングでは、統計家や多くの共同研究者が集まり、専門性で分担して研究を進めるスタイルは、想像を超えるスケールでした。またDr. Barocasは自宅でのホームパーティーを企画してくれ、多くの同僚と楽しい時間を過ごすことができました(写真2)。

さらに今年のJUA/AUA Exchange Programで金沢医科大学と新潟大学を訪れたDr. HsiもVanderbilt University所属であり、彼の外来、手術も見学させていただきました(写真3)。彼は、日本の診療やそのシステムにも関心があり、また彼と私は立場の共通点もあり、多くの意見交換ができたことは、素晴らしい経験でした。

今後はこの貴重な経験を活かし、診療の改善に貢献できるよう努力したいと考えています。再度、両学会関係者の皆様と医局の先生方に心から御礼申し上げます。

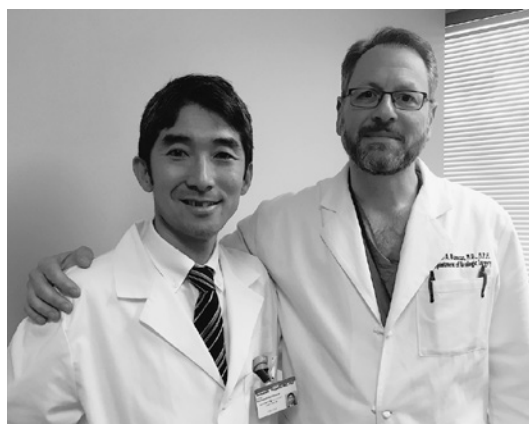


写真1 Dr. Barocas と外来にて



写真2 Dr. Barocasのご自宅でのホームパーティー
左から、Dr. Keegan, Dr. Laviana, Dr. Barocas, 筆者,
Dr. Moses, Dr. Chang, Dr. Koyama



写真3 Dr. Hsi と手術室にて